

2016 年度 学生支援の取組

学生把握	・ 1・2年の年初に QU（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を実施し、クラス運営に役立てる ・ クラス担任やゼミ担任による定期的な面談 （学期開始時、QU フィードバック、期末テスト終了時、実習前・後）
多くの相談窓口	・ クラス担任とゼミ担任を置き、定期的な面談を行う 二重担任制で、相談しやすい環境を作る ・ 担任のみでなく、学科長・教務責任者・副校長・校長と重層的に関わる体制を整える ・ 「YIC グループ総合支援室」による相談日を週 1 回程度設ける 教育相談や学校生活全般を支援、また学校内部の教職員に相談しにくい内容についての相談窓口になる
心理相談	・ 必要に応じ臨床心理士による相談体制を整備する
学習支援	・ 学習支援クラスを設ける（指導者は高校非常勤教員）（週 1 回 90 分） 勉強の仕方が分からない等、基礎的な学習の仕方に困難を感じている学生に対しては、正規授業以外の時間で支援する ・ リメディアル教育の実施 運動力学を中心とした物理のリメディアル教育を行う ・ 状況に応じ、多くの補習を提供する ゼミ対応での基礎科目復習の補習、再試験に向けての補習 臨床実習前実技のための補習 ・ 学び合う環境づくり ゼミ単位でグループ自主学習の機会を設ける 入学時宿泊研修を行い人間関係の醸成、学習意欲の向上に努める ・ ゼミにて 1・2 年時より国試対策学習を進める
保護者との連携	・ 年 2 回定期的に保護者会を開催（6 月、11 月） ・ 状況に応じて電話連絡、個別面談

2015 年度 退学者分析

退学者数	1 年	2 年	3 年	4 年	合計	退学率
作業療法学科	2	2	5	1	10	10.6%
理学療法学科	3	3	3	0	9	5.8%
合計	5	5	8	1	19	7.7%

- 基礎学力が低下している・基本的な学習習慣が出来ていない学生が多い
授業についていけない→学習意欲の低下→単位履修困難→退学の構図
対策 小テストを行い、学習の遅れの早期発見に努める
教員が重層的に関わることで、学習習慣の改善を図る
学習支援クラスを開設し、不安のある学生には基本的な学習方法を支援
- 入学前より精神・心理的問題を抱えた学生の増加
対策 多彩な相談窓口を設ける
週一回、カウンセラーによる専門的な相談が受けられるようにする
- 1.2 年時に膨大な医学知識習得を求められるため、モチベーションが維持できない
対策 授業ごとに求められる達成目標を明確にする
- 進路変更
対策 キャリアサポーターによる支援を行い、具体的な進路決定を支援する